

議員定数問題懇談会記録

1 日 時 令和5年9月26日（火曜日）
開 会 午後1時07分
閉 会 午後1時47分

2 場 所 第1委員会室

3 出席委員 11人
座 長 高 田 重 信
副 座 長 久 保 大 憲
委 員 舍 川 智 也
// 江 西 照 康
// 大 島 満
// 谷 口 寿 一
// 松 尾 茂
// 尾 上 一 彦
// 村 石 篤
// 鋪 田 博 紀
// 赤 星 ゆかり

4 欠席委員 1人
委 員 横 野 昭

5 職務のために出席した者

【議会事務局】

事務局長	渡 辺 康 裕
事務局次長	大 野 満
庶務課長	山 下 達 也
議事調査課長	坂 口 輝 之
庶務課主幹（課長代理）	中 山 崇
議事調査課長代理	酒 井 優
議事調査課議事係長	土 方 智 樹
議事調査課調査係長	谷 端 裕美子
議事調査課主査	中 村 千 里

6 協議結果について

（1）各会派の意見について

令和7年4月に執行予定の市議会議員選挙における議員定数の考え方について、各会派の意見を聞いた。今回出された意見を事務局でまとめ、各会派に配付し、次回まで検討することを決定した。

（2）市民との意見交換について

市民の意見聴取や学識経験者を呼んでの「議員定数フォーラム」の開催は必要ないと考えたという意見が大勢を占めたことから、実施しないことを決定した。

（3）その他

議員定数問題懇談会の記録について、ホームページや議会棟閲覧室等で公開することを決定した。

7 会議の概要について

座長 ただいまから議員定数問題懇談会を開会いたします。横野委員から都合により欠席するとの連絡がありましたので、御報告いたします。協議に先立ち、懇談会記録の署名委員に舎川委員、江西委員を指名いたします。協議に入ります前に、去る3月23日に開催された本懇談会で、傍聴に関しては報道機関に限らず、市民及び議員に関しても幅広く公開していくことを決定しておりますが、懇談会の記録につきましてもホームページや議会棟閲覧室等で公開したいと考えておりますが、そのようにすることとしてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

座長 それでは、そのように決定いたします。本日の協議事項はお手元に配付のとおりであります。初めに、協議事項の1番目、各会派の意見についてであります。前回の本懇談会において、議員定数について各会派で検討するようにお願いしておりました。各会派の御意見を伺いたいと思いますので、まずは富山市議会自由民主党から順にお願いいたします。

舎川委員 議員定数については、地方自治法第91条に市町村の議会の議員の定数は条例で定めると規定されているのみであります。すなわち、議員定数は我々が自らの裁量で責任を持って決めていかなければならないというものであります。議員定数を考える上で、議会の構成については、自治体全体から広く選ばれた住民の代表で組織することに意義があることから、まずは、その自治体規模と合致した議会であるのかが問題の所在であると考えます。したがって我が会派では、議員定数を広い市域から多様な住民意見を反映させることができる定数と定義し、その定義に基づき人口及び面

積規模から定数を検討し、その定数が市域全体をカバーできる数かどうかについて、次のように考えたいと思います。

現在富山市の人口は約40万7,000人で、現行の議員定数の38人で除すると議員1人当たり、約1万7000人です。前回の選挙が行われた令和3年の人口は約41万4,000人であり、議員1人当たり約1万9000人でありました。また、次回の選挙が予定されている令和7年の人口は、富山市人口ビジョンでは約40万7,000人となっておりますが、この数は現在の人口と同じで、当初の想定より人口減少が加速しているものと考えます。

しかしながら、現時点で次回の選挙日における明確な人口が予想できないことから、我々としてはまずは議員1人当たり1万人を基準としたいと思います。そうならば定数を40人と提案しなければなりません。人口減少を迎える局面でありますから、今のタイミングで定数の増は考えるべきではないと思います。

その上で、議員1人当たり人口1万人と仮定し、その基準を面積に照らすと、富山市の場合、その広大な面積から議員1人がカバーする範囲は相当大きくなり、特に山間部選出の議員の負担が過大になり過ぎることから、面積基準をもって妥当な議員定数をはかることは困難であると考えております。一方で、人口減少によりさらに多くの課題を抱える山間部の議論は、山間部選出の議員の問題だけではなく、むしろ議会全体の問題として取り組むべきだと考えます。したがって、面積基準を議員定数に加味することができない富山市におきまして、議員1人当たり人口1万人で一これも仮定でありますが一市域全体をカバーできるように選出されるのかどうか問題となると考えます。その問題については、現在市内の中学校25校区単位の人口規模に則して議員がそれぞれ選出されている状況でありまして、今後、小学校の統廃合があっても、その状況は富山市の人口分布から当面維持されることから、議員1人当たり人口1万人をカバーすることにより、概ね市内25

中学校区のそれぞれの人口規模に基づいて選出されることが可能であり、そこから現行の定数38人によって、各地域の多様な住民意見を反映できるものと考えております。ただ、山田地域、細入地域においては、人口がそれぞれ1,000人台前半にとどまり、現在議員が不在となっておりますが、議員不在地域の課題については、現行の38人の議員が広く共有し取り組むことによって、市内25中学校区における市民との一定の距離感、すなわち顔の見える距離は保たれるものと考えております。

したがって我が会派といたしましては、富山市が有する広い市域から多様な住民意見を反映することができる定数を38人と考え、ゆえに現状の定数を維持することが妥当であると考えます。

一方で、議員1人当たり人口1万人と考えれば、富山市の人口が38万人を下回った時点で、定数削減の議論に入るべきだと考えます。ただ、その局面においても考えなければならないのが、そもそも議員定数を削減しようという議論のスタートの多くは、議員の成り手不足を抱える議会が掲げるものでありまして、翻って富山市議会の場合は毎回一定の立候補者がおり、成り手不足とまでは言えず、議員定数を削減することはかえって市民の声を封殺することになりかねないということも申し添えさせていただきます。

江西委員

今、富山市議会自由民主党の意見を聞いて、私が当初考えていた意見とちょっと違うなと思ったのです。といいますのは、本年3月23日に富山市議会自由民主党から議長が選出されて、就任後の新聞報道で、議員の質を上げるために定数を10人ぐらい減らしてもいいと言っておられたのを見たものですから、富山市議会自由民主党は10人減らすという提案をされるのかと聞いていたのです。本懇談会は議長の諮問機関でもありますので、その辺は整理されたのかなと思います。

今、舎川委員は学術的な観点から意見を述べられたのですが、現実的に言うと、議員の質の向上のため

に定数を10人減らすという話だったので、これを現実に置き換えて、前回の選挙結果から10人減らすと、議長である金厚議員は当選しなかったのです。そのほか、現在議会運営委員長、予算決算委員長、厚生委員長を務める議員も当選しなかったと。しかし、その方々の質が不足しているのかということ決してそうではないと思いますので、質不足の観点から定数を減らすということに関しては何の根拠もなく、論理が成り立たないのではないかと思うところであります。

私は今3期目ですけれども、市議会議員は政治の基礎的な入口となりますから、その後、県議会議員選挙や参議院議員選挙に立候補するなどいろいろなことがある中で、辞職する方もいます。前は48人の立候補者がありまして、38人でスタートしても38人のまま任期を終えるということもありませんから、定数を見直すこと自体に理由が見当たらないと考えております。また、私どもの会派は中山間地から選出された議員が多いので、現状の定数を維持してもらえればと考えております。

松尾委員

今、富山市議会自由民主党、自由民主党から様々な意見がありました。

人口に対する定数の考え方や、富山市の面積は非常に広いということでの算出方法を聞かさせていただきました。それももちろん非常に重要な視点だと思っています。今、新型コロナウイルス感染症も経験し、本当に多様な生き方がある時代になってきたという背景があり、また、少子・高齢化という一番の課題を抱える中で、例えば高齢化に伴う個人的な相談やお子さんに関する相談といったものが非常に多くなってきています。もちろん議員の仕事量にも関わってくることもかもしれないのですけれども、公明党会派としましては、そのような観点から考えると議員の必要性というか、市民の皆さんからの心配事などを議員がしっかりと受けとめていかなければならないということは当然のことであって、そのような事案が非常に増えているという実感があるものですか

ら、議員定数を削減することに対しては、ちょっと慎重にならざるを得ない状況だと感じています。現状としては、このまま38人を維持すべきではないかということが、公明党会派としての意見であります。

村石委員

結論から先に言うと、現行の定数38人を維持すべきだということです。その理由は3つあります。

1つに、類似都市との比較についてです。先ほど富山市議会自由民主党からありましたように、議員1人当たりの人口規模は、例えば金沢市、福井市、長野市においても1万人前後で、議員1人当たりの人口が同じ状況であるということがあります。

2つに、投票率です。平成21年の富山市議会議員選挙の定数は42人で、投票率が58.11%でした。これが平成25年の選挙では、定数が40人で、投票率が53.05%と議席が2つ減っただけで5.06ポイント下がっています。次に、平成29年4月の選挙の投票率は47.83%で、平成25年の選挙と比べて5.22ポイント下がっています。投票している人が有権者の半分以下なのです。議員定数と投票率に密接な関係があるということから考えても、定数を減らすことは、本当に慎重に考えざるを得ないと思っています。令和3年の選挙での投票率は47.96%で、この年も大変少ないです。加えて、選挙人名簿登録者数が増えているのです。平成21年は34万1,924人でしたけれども、令和3年は34万7,038人と選挙人の数が増えているということもあると思います。

3つに、議会の総合力という視点が必要だと思えます。議員には、行政をチェックし検証する、住民福祉向上のための政策提言をする役割があります。先ほどもお話があったように、住民の声をしっかりと聞いて議会に届けるといった仕事があると思います。そのようなことを38人で行うのと、定数を減らして行うのでは、議会の総合力が違ってくるということが言えるので、今の定数38人で今後も総合力を保っていく必要があると考えています。

赤星委員

私も結論から言いますと、現行の38人で、減らす必要もないし、減らす理由も見当たらないと思います。

今、それぞれの会派から御意見がありましたけれども、もう本当にもっともだと思って聞いておりました。

顔の見える距離感に議員がいることはとても大事ですし、多様な意見を聞くことも大切です。むしろ私は38人でもカバーし切れていない、本当は元の40人に戻したほうがいいとさえ思っているのですけれども、いろいろな市民の感情からすれば、今、議員定数を増やすことは理解が得られないと思うので、38人ということでもいいと思います。

また、松尾委員もおっしゃいましたが、今、高齢者やお子さんの保護者の方からの個人的な相談が本当に増えているのです。私も身を持って感じております。富山市の政策課題でも、いろいろな新しい制度や今まで聞いたことのないような課題がたくさん出てきておまして、それぞれの議員もなかなか勉強が追いつかない部分がございますので、本当はもっと多様な議員がいたほうがいいのかと思うのですけれども、今は増やさず減らさず38人で次の選挙を迎えるべきだと思っております。

尾上委員

結論から言いますと、38人の現行どおりでいいと思っております。

定数についていろいろと考える中で、人口の多い都市や少ない都市などいろいろな都市がありますが、先ほどから議員1人当たりの人口は大体1万人というような御意見もありましたけれども、ものすごく人口の多い都市では数万人を1人の議員で担っているところもありますし、逆に人口が少ない都市ですと少ない人数しか抱えていないところもあります。実際のところ何が正しくて何が正しくないのかという答えはないと思うのですけれども、そこから議員定数を算出することは非常に難しいと思っております。富山市と同じぐらいの人口規模の都市を見ますと、議員定数は大体36人から42人一多いところ

でも42人、少ないところだと32人ぐらいという中で、先ほどからいろいろな御意見が出ていますが、やはりこの広い市域をカバーしていくためには、現行の38人が適当ではないかと我が会派では思っております。

谷口委員

まず定数の議論というものは、そもそも削減ありきでスタートしているものではないと思うので、本懇談会が開かれたことはいいことではないかと思っております。

私の考えとしては、4つの部門別常任委員会の定数にばらつきがあるので、これを何とか同数にしたいという思いを持っております。そうすると、4委員会掛ける9人で36人、または、4委員会掛ける8人で32人になります。

もう一つ、議長の扱いについてですけれども、今、議長は部門別常任委員会には入っていますが、予算決算委員会には入っていないという、ちょっといびつな形になっています。議長は最初から委員会に入らないという前提で考えれば、先ほどの計算に1人加えて、例えば37人や33人という想定もできるのかと思っております。37人がいいのか33人がいいのか、私の中ではまだ決め切っておりませんが、考え方の根本にはそのようなものを持っております。それと、定数を減らすと投票率が下がると先ほど言われましたが、これは全く違うと思っております。富山県議会は定数を減らしておりませんが、投票率が下がっております。

大島委員

私は会派の名前のとおり32人で、6名削減を主張したいと思っております。

まず、この議員定数問題懇談会が開かれた前提として定数の削減があると思っております。それが何名なのかという話し合いをする場だと思っております。先ほど江西委員がおっしゃったように、金厚議長が10人ぐらい削減するというお話をされたので、思い切って言われたと。前回の選挙の前の新聞でもそのような記事が載っていましたので、現状維持と

いう考えの方が多いいことに驚いております。
まず、平成29年の選挙に向けて定数を2人削減するという前提で、議員報酬を60万円から70万円に上げるというところから、いろいろな問題が出て補欠選挙になりました。その補欠選挙で、大変たくさんの方の立候補者が出まして、その後、70万円の議員報酬を60万円に戻すという議員提出議案で反対討論をさせていただきました。大きな声で発言したので覚えている方もいらっしゃるかもしれません。これから人口減少が急激に進む時代に、舎川委員が言われたように議員1人当たり人口1万人と考え、人口が38万人を切ってから定数削減を考えるということでは、やっぱり対応が遅くなると私は思います。財政的にも、市町村合併以来、税収が最高だという報告もありましたけれども、これから大変厳しい時代に向かうのは間違いありませんので、やはりほかの党が言っている自らの身を切る改革ということで、議会として当局に対しても厳しく対応できるのではないかと思います。

あと山田地域、細入地域のような議員の不在地域については、逆にいろいろな議員が入って丁寧に意見を聞くなどして、その地域の議員がいるよりも、かなり要望が吸い上げられる場合もあります。もしそういうことであれば、小選挙区ということも一つの方法になりますが、それはありえないと思いますから、大きな地域に対して議員が少ないと大変だという点は、工夫次第で何とでもなるのではないかと思います。

結論を申し上げますと、平成29年の選挙の分で2人と、前回、令和3年の分で2人、今回2人で合計6人削減し、4つの部門別常任委員会で委員が8人ずつということで、32人を主張させていただきたいと思います。

座長

これで各会派からの現時点での意見をお聞きしたところですが、ほかに何か御意見はありませんか。

〔発言する者なし〕

座長 ないようですので、この程度にとどめます。
今ほど皆さんの御意見をお聞きしたところ、意見の一致は見られないようであります。
今、いろいろと各会派から意見が出されましたが、これらの意見を踏まえて、いま一度各会派で検討していただきたいと思います。今の御意見を事務局で少し要約してもらって、もう一度皆さんに会派で話し合いをしてもらうということによろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

座長 それでは、そのように決定いたします。
次に、協議事項の2番目、市民との意見交換についてであります。
このことにつきましては、前回の本懇談会において村石委員より提案があったものであります。
それでは、村石委員から内容についていま一度説明をお願いします。

村石委員 議員定数の検討は、市民を代表する人の人数を決めるということなので、議会だけの問題ではなくて、やはり市民と一緒に考えることも大事ではないかと思っています。講師を呼んで話を聞く、会場に来た市民に意見を言うってもらうなどといったことができるのか議会事務局に聞いてみたら、そのような予算は組んでいないということでありました。御存じの方もいらっしゃると思いますが、以前、議会で議会基本条例について検討したときは、学者の方を2人呼んで、本庁舎8階の議員協議会室で議員研修会を開いて、その後、議会で協議したということがあります。ですから、初めてのことはないと思うので、市民の皆さんと講師を呼んで話を聞いて、そこで意見交換をする方法が1つあります。
一方で、そこまではしなくていいだろうということであれば、議会として勉強会を開こうと。勉強会を開いて意見を聞いた上で、各会派へ持ち帰ってまた議論してみるなど、いろいろな方法が考えられると

思うのです。

議会だけで決めず、学識経験者や市民の意見を聞いて決めたほうがいいのではないかとということが私の意見です。方法はいろいろあると思います。

座長 ただいま村石委員から提案がありましたことについて、質問はありませんか。

谷口委員 有識者を呼んで勉強会をされると言われましたが、誰を呼ぶのかという問題も出てくると思います。また、当然、減らしたほうが良いと言う先生もいるだろうし、増やしたほうが良いと言う先生もいると思います。両方の意見を聞けるのであればいいのですけれども、逆に言うと、各会派で事前にいろいろと勉強してから議員定数問題懇談会に臨めばそれでいいと思います。

村石委員 金沢市では2人の学者を呼んでいます。その意見が賛成なのか反対なのかまでは分かりませんが、呼ぶのは1人だけではないという議会もあります。

座長 ほかにないようですので、この程度にとどめます。なお、中核市における市民の意見聴取等の状況について、事務局にチームズにより事前に参考資料を配付させております。それでは、各会派の御意見を伺いたいと思いますので、まずは、富山市議会自由民主党から順にお願いいたします。

舎川委員 先ほどもお話しさせていただいたのですが、議員定数は我々が自らの裁量で決めるという趣旨でもありますから、私たちは人口と面積から富山市行政と向き合う最小単位を38人と導き出したというところであります。しかし先ほど村石委員もおっしゃったように、議員定数については、富山市議会のみならず他の地方議会においても、一部の市民からの政治に対する不安や不信が非常に大きいものと理解しております。そ

のため議員定数を見直したらどうかといった御意見もあると聞いております。

そのため我が会派では、今年1月16日に講師をお招きして勉強会を実施し、そのお話を聞きながら意見交換を続けている状況であります。当然、そのときはそれぞれの議員が市民の皆さんから賜った様々な意見を持ち寄って議員定数について議論しているところでもあります。したがって、私たちはこの議員定数問題懇談会以外の場でも常に市民の皆さんの御意見を踏まえて勉強会などを実施することによって、議員定数の在り方について議論を深めているところでもあります。

また、先ほど御紹介いただきました他都市における議員定数の検討の仕方ではありますが、昨日議会事務局に実施都市の状況をお聞きしたところ、定数減の議論が議会内である程度進んだタイミングでパブリックコメントや市民との意見交換を実施しており、市民の声を毎回お聞きしているわけではないという自治体が多いことを確認していただいたところでもあります。

したがって、我々の立場としましては、常に市民との接点を持ち、加えて勉強会を行うことなどにより、自らの責任で議員定数について決定していくべきだと先ほど述べたとおりであります。そのような考えを持っていることから、議会全体として市民や学識経験者の御意見を伺うことについては、今は必要ないと考えております。

江西委員

例えば平成29年の改選に向けて議員の報酬を上げてはどうかという意見が出たときは、特別職報酬等審議会の意見を聞かなければならない義務があったと思います。一部の有識者の意見は市民の意見とは全く異なっており、その後、政務活動費に関する大きな反動があったのです。ですから、一部の有識者や市民を招いて意見を集約するということには何の意味もないのではないかと私は考えます。

一方で、今、安芸高田市長のユーチューブはものすごい勢いで閲覧されています。議会があっても質問

すらしらない議員がいるとは市民は思っていないというようにおっしゃっていて、賛同する方も多いのだと思うのです。ただ議員としてすべきことをしっかりと行うことと、議員の定数に関係するような主要なポストに当選の順位は全く関係がないということもありますから、今、舎川委員も会派で勉強されていると言ったのですけれども、いわゆる各会派の中で議員として担うべきことをしっかりと担って、その中で定数について理解いただけるような活動をしていくべきではないかと思います。このような外部の方の意見をお聞きし、参考にしていくという他力本願なことはやるべきではないと思います。

松尾委員

市民の意見を聞くことに関しては大事なことだと思うので、自分たちが市民の皆さんの意見をしっかりと聞いて、その声をできる限り参考にし、議員としてこのような場で議論して反映させていけばいいのではないかと考えています。

いろいろな学識経験者がいらっしゃるのですけれども、議員や富山市の情勢を知った上で議員定数に踏み込んだ発言をできる方というのは、もう本当に限られるのだろうと感じています。もちろん誰でもいいというわけでもないですし、学識経験者だからいいということでもないと思います。

今、実際にこの現場で責任を持って議論を進めているのは我々現役の議員であって、現場を知っているのは私たちなので、市民の皆さんからの意見をしっかりと収集して、自ら勉強してこの場で結論を出していくということが重要なのではないかと考えていますので、市民との意見交換は考えておりません。

赤星委員

村石委員がおっしゃるように、議員定数の検討は議会だけの問題ではなくむしろ市民の問題ですので、意見を聞くことはいいことだと私も思うのですけれども、今、もし開催するとしたら議会側から何を投げかけるのか、何を報告するのか、議員個人ではなくて富山市議会として何に取り組んでいるのかということなどをどのように報告すべきかという課題もあり

ます。まずは議会全体として議会報告会などを開催するような体制とした上で、市民の御意見を聞かなければならないと思っています。

舎川委員がおっしゃいましたが、この他都市の事例では議会内で定数削減の話がある程度進んだ段階で実施しているということです。今、特に市民から議員を減らすべき、増やすべきなどといった声が起こっている状況でもないので、今具体的に開催しようと思うとちょっと難しいと思っています。

尾上委員

私も不要だと思っています。

このようなことを行っても、市民全員が出てきて話ができるのかということ、なかなかそのようなことは不可能なのだろうと思います。やはり偏った意見になりがちだと私は思っておりますので、意見交換会は必要ないと思っています。

谷口委員

何となく市民の意見を聞いたらいいいのではないかとということで、例えばパブリックコメントなど、ガス抜きの実施するのであれば全く意味はないと思います。それと、市民のいろいろな意見を聞いて、本当にその意見を取り入れる—例えば意見を聞いてもし削減すべきだという声が完全に多かった場合、その声を受け入れるところまで腹をくくって進めるのであればいいと思います。多分そういう場ではないと思うので、議員の定数は、やっぱり自分たちで判断していけばいいと思います。

あと1点、ちょっと話がずれますが、先ほど江西委員がおっしゃった、定数を10人減らした場合に今の議長や議会運営委員長がそもそも選ばれていないという発想はちょっとまずいかなと思います。選挙は1回1回のものなのです。

大島委員

私も最初は議員定数がすごく多いと思っていましたが、この議会に長く身を置けば置くほど、自分たちが多いというように考えなくなってきたと思います。議員を長く務めれば務めるほど、まさに余人をもって代え難しのように、私が死ぬまでやるしかないだ

ろうというような勘違いが起きてくる自分が怖いな
とっております。

やはり議会で決めるべきことですが、富山市議会の
議員定数38人が多いのかどうかは、自分たちでは
なかなか冷静に判断できないと私は常々思っており
ます。本当は市民の方々へのアンケートなどで意見
を聞けばいいのかもしれませんが、谷口委員
がおっしゃるように、市民の大多数が削減したほう
がいいと言われたとしても、私たちで決めなければ
いけないので、実施は難しいかと思えます。

座長

結論は、難しいという捉え方ですね。

皆さんの御意見をお聞きしたところ、議員定数の検
討に当たり、市民の意見聴取や学識経験者を呼んで
の議員定数フォーラムの開催は必要ないと考えると
いう意見が大勢を占めているようであります。
よって、そのように決定したいと思えますが、よろ
しいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

座長

それでは、そのように決定いたします。

以上で本日の協議事項は終了いたしました。

次回の日程につきましては、私としましては10月
末頃を目途に考えておりますが、正・副座長で協議
して、改めて御案内したいと思えます。

それまでに議員定数につきましては、再度各会派で検
討していただきたいと思えます。

江西委員

先ほど谷口委員から御指摘があったことですが、私
はその逆を言ったのです。質の向上のためと言われる
ので、当選順位が下の人の質が低いという論調は
まるでないということをお願いいたしてそう言ったので
す。全く反対の意味だと考えていただきたいと思
います。

谷口委員

そうであれば、前回の当選順位をもって発言される
のはちょっと適切ではないと思っております。

江西委員 そのように受け取られるのであればそれでいいのですが、それ以外の表現の仕方がうまく思い浮かばなかったのもので、私の語彙力不足をお許してください。

座長 これをもって、本日の議員定数問題懇談会を閉会します。

令和5年9月26日
議員定数問題懇談会記録署名

座 長 高 田 重 信

署名委員 舍 川 智 也

署名委員 江 西 照 康